

- 1  JECの流れ(神学)の  
継承・深化・発展の最良の手段  
としてのエリクソンの「キリスト教神学」

### 各論 : JECの聖化論について

エリクソン博士をお迎えしての  
「JEC拡大教職者会」レジュメ  
関西学院会館: 2003.3.11  
一宮基督教研究所: 安黒務

- 2  歴史的ルーツと連続性

1. 聖書と聖霊さえあれば、過去と無関係?
2. キリスト教遺産の豊かさを見失う
3. キリスト教遺産の回復の要請
4. 教会の歴史 - 聖書に従って教会を改革しようとする福音主義的衝動
5. 福音が聖霊の働きによって解き明かされた
6. 聖書の示している福音の枠を守りつつ
7. 他の時代や他のもろもろの運動から学び取る
8. 福音の全体的意味・十全な意味で福音主義的

- 3  歴史神学の視点からみたJEC

- ①
1. 三つの要素
  2. 使徒的キリスト教
  3. 古代教会の正統信仰
  4. 宗教改革の三大原理
  5. 改革の四つの流れ
  6. 信条
  7. 正統主義神学
  8. 敬虔主義の遺産
  9. 自由教会

- ②
1. リベラリズム
  2. エリクソン博士
  3. 結び

- 4  組織神学の視点からみたJEC

1. 神学方法論
2. 聖書論
3. 神論
4. 人間論
5. キリスト論
6. 聖霊論...ペンテコステ・カリスマ的強調
7. 救済論...ケズィック・ホーリネス的強調
8. 教会論...バプテスト的強調
9. 終末論...プレミレニアニズムの理解

- 5  エリクソンの聖化論

「第34章 救いの継続と完成」

### 第1節 聖化

- 序: 御子のかたちと同じ姿に、変貌、完成へ
- 1. 聖化の意味: 二つの意味
  1. 日常の使用から特別な目的に聖別される立場: 神に属する者とされた客観的立場
  2. 道徳的善良さ: プロセス、程度、内的人格に関する聖霊の主観のみわざ

2. 聖化の特徴
  1. 人間的改良ではなく、超自然のみわざ
  2. 漸進的な神のみわざ、継続の意味の動詞の使用
  3. 目標: キリストご自身の似姿
  4. 聖霊の働きである: 御霊にある生活、御霊の実、御霊によって...
  5. 完全に受身ではない: 神律的相互性、神律的共働性の領域
3. 聖化: 完全あるいは不完全?
  1. 地上での完成、罪を犯さない地点に到達しうるのはか?
  2. 「全き聖化」を呼びかける箇所が存在
  3. ローマ七章におけるパウロの経験
  4. 罪の性質の吟味
  5. 求められている「完全さ」の性質とは?
  6. 「罪を犯さない状態」は目標であるが、この地上で到達はできない
  7. ヨハネ3:4-6 は常習的に罪を犯すことについての言及

## 6 菅神学生論文

### エリクソン神学を座標軸にして

#### 我喜屋神学とウェスレアン神学の比較研究: 序

- 序: エリクソン神学を座標軸とする理由
  1. 自教派的解釈に盲目的に走らず
  2. 他の代表的神学の評価を公平に扱い
  3. 自陣も含めて、客観的に長所、短所、特徴を抽出し
  4. 福音派の公同性に関わる共通部分を決定し
  5. 枝葉の理論を派生させている
  6. ゆえに、公平さにおいて信頼感がある

## 7 菅神学生論文: エリクソン神学を座標軸にして

### 我喜屋神学とウェスレアン神学の比較: 概要

- 序
  1. 福音主義神学における聖化の定義
    1. 聖化の意味: 地位的聖化、実質的聖化
    2. 聖化の特徴: 神のみわざとしての聖化、その継続性、聖化の目標、聖霊の働き、神律的相互性
    3. 結び: 「聖化とは何か?」
    4. 聖化に関する二つの立場: 「完全」あるいは「不完全」か?
  2. 「完全」肯定論としてのウェスレーの聖化論
    1. その神学: 「キリスト者の完全」、「聖霊のあかし」の教理
    2. ウェスレアン聖化論への評価と問題提起: 評価、問題提起
  3. 我喜屋光雄師の聖化論
    1. 我喜屋「聖化論」の輪郭: メッセージ、神学的位置づけ
    2. 我喜屋「聖化論」への評価と問題提起: 評価、問題提起
  4. 結論
    1. 発見
    2. 自分の「聖化」観への影響
- 資料・参考文献(各章末にも配置)
- 終りに